

豊川市地区市民館営繕計画

第2期

【令和4年度～令和8年度】

令和3年6月

市民部市民協働国際課

目 次

1	計画策定の経緯と今までの取り組み	1
(1)	計画策定の経緯	1
(2)	第1期営繕計画期間の取り組み	2
2	第2期営繕計画の取り組み	3
(1)	三上地区市民館始め東部小学校区3館【統合・再編】	4
(2)	三蔵子地区市民館【建替え】	7
(3)	千両地区市民館【建替え】	9
◎	参考資料	11

1 計画策定の経緯と今までの取り組み

(1) 計画策定の経緯

市では、既設の地区市民館30館について、平成29年6月に「豊川市地区市民館適正配置方針」を定め、「今後の地区市民館は、小学校区又は連区を単位とし、公民館・生涯学習会館の配置状況を踏まえ、居住人口や地区住民の要望等を考慮して配置する」ことを基本的な考え方とし、適切な長寿命化を図っていくこととしました。

縮減目標としては、平成29年に30館、地区市民館全体の延床面積14,083㎡であったものを、50年後には、施設数は小学校と同数程度の26館に、延床面積は現有面積の30%を縮減した9,900㎡以内とすることとしています。そのため、集会室・和室・会議室・事務室・調理室を基本構成とするコンパクトな地区市民館を目指し、将来の地区居住人口に応じて2種類の基本モデル*を設定することで、面積の縮減を図ることとしています。

さらに、これらの方針を具現化するためには、概ね建設年度等を基準に建替え時期を分散することで予算の平準化等を図りながら、順次、計画的に整備を進めることが必要と考え、平成29年6月に、平成29年度から令和3年度までの5年間の「第1期営繕計画」を策定しました。なお、ファシリティマネジメントの観点から、建替えは既設地区市民館の整備場所で行うこととし、統合・再編する際に限って新たな整備用地の取得を検討することとしています。

この計画については、事業の進捗状況を確認しながら、多様化する市民ニーズや社会環境の変化に対応できるよう、5年ごとに計画を策定することとなっており、令和4年度から5年間の「第2期営繕計画」を策定するものです。

*2種類の基本モデル

A スタANDARDモデル:

居住人口5,000人未満の地区に整備する延床面積約300㎡(防災倉庫除く)の施設。

施設内容は、集会室、和室、会議室、事務室、調理室を基本とする。

B ラージモデル:

居住人口5,000人以上の地区に整備する延床面積約400㎡(防災倉庫除く)の施設。

施設内容は、集会室、和室2、会議室、事務室、調理室を基本とする。

(2) 第1期営繕計画期間の取り組み

第1期営繕計画期間においては、建替えや再編に係る費用負担の分散を図るため、建替え時期を前倒ししてファシリティマネジメントを実施し、施設数として1館、延床面積として792㎡の縮減を行いました。

具体的には、平尾地区市民館と古宿地区市民館について、今後の人口減少を踏まえ、現在の利用状況や求められる役割などを勘案し、現在の場所で延床面積を縮減して建替えを行いました。新地区市民館には多目的トイレを設置するとともに、扉の広さや開閉のしやすさ、段差の解消等、誰もが利用しやすい施設整備を図り、間取り等については地元要望を反映しています。

また、旧一宮町との合併時に地区市民館として引き継いだ大木会館について、地元からの要望により、令和3年4月に地区市民館としての用途を廃止し、地区の集会施設として地元町内会に無償貸与しています。

なお、東部小学校区にある三上・麻生田・睦美地区市民館については、統合・再編に向けて、令和2年6月に三上・麻生田・睦美連区の代表者からなる「東部小学校区コミュニティ活動推進委員会」を設置し、再編のメリット・デメリット等について協議を重ねました。その結果、3館を再編し、東部小学校区のコミュニティ活動拠点として新地区市民館1館を整備することに地元の合意を得ることができ、令和3年5月からは「豊川東部地区市民館整備検討委員会」を設立して、新地区市民館の整備場所や施設内容、駐車場の確保等について検討しています。

施設名	施設面積 (㎡)		備 考
	整備前	整備後	
平尾地区市民館	418.54	317.35	
古宿地区市民館	429.15	324.67	
大木会館	587.30	—	用途廃止
合 計	1,434.99	642.02	

2 第2期営繕計画の取り組み

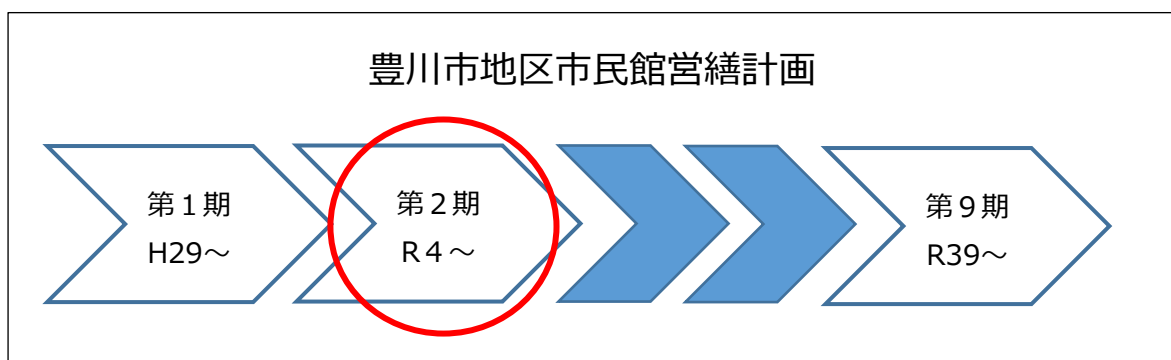
豊川市地区市民館適正配置方針に基づき、令和4年度から令和8年度までの5年間で計画期間とする「第2期営繕計画」を策定し、施設数として2館、延床面積として1,049㎡の縮減を目標に、誰もが利用しやすい地区市民館の整備に取り組みます。

具体的には、第1期営繕計画から取り組んでいる三上・麻生田・睦美地区市民館の統合・再編を行うとともに、令和6年度から令和7年度に建替え時期を迎え、ポートフォリオ分析（別添「豊川市地区市民館適正配置方針」P.12-13）によりBゾーン【建替え】に分類された三蔵子地区市民館、千両地区市民館の建替えを行います。

また、財源に関しては一般財源に依らざるを得ませんが、国庫補助金や市債の活用も検討していきます。

なお、地元との調整状況や財源確保のため、スケジュールが前後することがあるとともに、下郷地区市民館については、次の第3期営繕計画で検討することとします。

施設名	施設面積（㎡）		備 考
	整備前	整備後	
三上地区市民館	451.84	440.00	豊川東部地区市民館 に統合・再編
麻生田地区市民館	419.75		
睦美地区市民館	426.00		
三蔵子地区市民館	460.25	440.00	
千両地区市民館	502.00	330.00	
合 計	2,259.84	1,210.00	



(1) 三上地区市民館始め東部小学校区3館【統合・再編】

三上地区市民館は昭和51年に建設され、主に三上連区（三上町）のコミュニティ活動拠点として、麻生田地区市民館は昭和53年に建築され、主に麻生田連区（麻生田、上野、大橋、二葉、向河原、谷川の6町内会）のコミュニティ活動拠点として、睦美地区市民館は昭和54年に建設され、主に睦美連区（三谷原、村前住宅、牧野、土筒、院之子、当古、住吉の7町内会）のコミュニティ活動拠点としてそれぞれ活用されています。3館ともに建設から40年以上が経過し、令和4年度から令和7年度に建替え時期を迎えます。

第1期営繕計画での検討を踏まえ、新たに整備場所の用地を確保して豊川東部地区市民館を建設することとし、東部小学校区における令和42年の居住人口の推計は5,000人を超えるため、新地区市民館はラージモデルとなります。

なお、3館とも保育園に隣接しており、特に三上地区市民館は施設自体が三上保育園と合築となっています。そこで、豊川東部地区市民館の供用開始後は、3館の用途を廃止し普通財産とするとともに、保育園等の整備方針と調整しながら他の利用方法がない場合は、地元連区・町内会が望めば地区集会施設として無償貸与することとし、不要となった場合は市が施設を取り壊し、跡地処分を検討します。

A. 東部小学校区の居住人口推計

	令和2年	⇒	令和42年(推計)
居住人口	7,464人	⇒	5,499人

※令和2年4月1日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

- ・所在地 東部小学校周辺
- ・敷地面積 約 2,000～2,500 m²
- ・建物概要

	三 上	麻生田	睦 美	豊川東部
構 造	鉄骨造 2 階建	鉄骨造 2 階建	鉄骨造 2 階建	鉄骨造平屋建
延床面積	451.84 m ²	401.75 m ²	401.50 m ²	440 m ²
	1 階	241.34 m ²	276.50 m ²	440 m ²
	2 階	210.50 m ²	125.00 m ²	—
施設内容	集会室、 和室(12.5 帖)× 2、 会議室、事務室、 調理室、図書室	集会室、 和室(10 帖 + 15 帖)、 会議室、事務室、 調理室、図書室	集会室、 和室(10 帖 + 8 帖)、 会議室、事務室、 調理室、図書室	集会室、 和室(15 帖)× 2、 会議室、事務室、 調理室、防災倉庫

※他に自転車置場（麻生田 18 m²、睦美 24.5 m²）あり

C. 事業費見込み

種 別	金額（千円）	備 考
建 築 工 事	183,040	440 m ² ×@416,000 円/m ²
太 陽 光 シ ス テ ム	5,292	発電容量 5 K w、蓄電池付き
消 費 税	18,834	1 0 %
合 計	207,166	

※用地費は含まない。

※調査費、設計費(基本設計、実施設計)は含まない。

※移転に伴う引越し費用などの諸経費は含まない。

※用途廃止後に生じる諸経費は見込まない。

D. スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
地 元 説 明					
用 地 取 得	●	●			
調 査 ・ 設 計	●	●			
建 築 工 事			●		
供 用 開 始				●	



三上地区市民館



麻生田地区市民館



睦美地区市民館

(2) 三蔵子地区市民館【建替え】

三蔵子地区市民館は昭和53年に建設され、令和6年度に建替え時期を迎えます。主に三蔵子連区（三蔵子・樽井・六角・本野・大崎・長草の6町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されており、そのエリアは三蔵子小学校区と同一で、適正配置方針に沿ったものとなっています。

利用状況を見ると、令和元年度における利用者数は12,221人、平成28年から令和元年度までの4年間の平均利用者数は13,412人で、全地区市民館の上から10番目となっています。

三蔵子小学校区における令和42年の居住人口の推計は5,000人を超えるため、新地区市民館はラージモデルでの建替えとなります。

A. 三蔵子小学校区の居住人口推計

	令和2年	⇒	令和42年(推計)
居住人口	11,662人	⇒	7,324人

※令和2年4月1日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

- ・所在地 豊川市大崎町小林87番地
- ・敷地面積 604.35 m²
- ・建物概要

	建替え【前】	建替え【後】
構 造	鉄骨造2階建	鉄骨造平屋建
延床面積(面積比)	439.25 m ²	440 m ² (100.2%)
1 階	245.25 m ²	440 m ²
2 階	194.00 m ²	—
施 設 内 容	集会室、和室(12.5帖+15帖)、 会議室、事務室、調理室、 図書室	集会室、和室(15帖)×2、 会議室、事務室、調理室、 防災倉庫

※他に自転車置場(21 m²)あり

C. 事業費見込み

種 別	金額（千円）	備 考
建 築 工 事	183,040	440 ㎡×@416,000 円/㎡
太 陽 光 シ ス テ ム	5,292	発電容量 5 K w、蓄電池付き
解 体 工 事 費	21,667	461 ㎡×@47,000 円/㎡（処分費含む）
消 費 税	21,000	1 0 %
合 計	230,999	

※調査費、設計費(基本設計、実施設計)は含まない。

※建替え工事に伴う引越し費用などの諸経費は含まない。

D. スケジュール

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
地 元 説 明	●				
調 査 ・ 設 計		●	●		
建 築 工 事				●	
供 用 開 始					●

※現在地での建替えとなるため、建築工事期間中は他施設（プリオ生涯学習センターや町内会の地区集会施設など）を利用する必要があります。



三蔵子地区市民館

(3) 千両地区市民館【建替え】

千両地区市民館は昭和54年に建設され、令和7年度に建替え時期を迎えます。主に千両連区（千両・千両住宅・東数谷原・下西ノ谷・上西谷・南千両の6町内会）のコミュニティ活動拠点として活用されており、そのエリアは千両小学校区と同一で、適正配置方針に沿ったものとなっています。

利用状況を見ると、令和元年度における利用者数は7,745人、平成28年から令和元年度までの4年間の平均利用者数は8,706人で、全地区市民館の上から16番目となっています。

千両小学校区における令和42年の居住人口の推計は5,000人未満となるため、新地区市民館はスタンダードモデルでの建替えとなります。

A. 千両小学校区の居住人口推計

	令和2年	⇒	令和42年(推計)
居住人口	2,204人	⇒	2,200人

※令和2年4月1日住民基本台帳をもとに推計

B. 施設概要

- ・所在地 豊川市千両町小路8番地の4
- ・敷地面積 1,223.11 m²
- ・建物概要

	建替え【前】	建替え【後】
構 造	鉄骨造2階建	鉄骨造平屋建
延床面積(面積比)	463.00 m ²	330 m ² (71.3%)
1 階	316.00 m ²	330 m ²
2 階	147.00 m ²	—
施 設 内 容	遊戯室、和室(10帖+12帖)、 研修室、事務室、調理室、 図書室	集会室、和室(15帖)、 会議室、事務室、調理室、 防災倉庫

※他に自転車置場(18 m²)あり

C. 事業費見込み

種 別	金額（千円）	備 考
建 築 工 事	137,280	330 m ² ×@416,000 円/m ²
太 陽 光 シ ス テ ム	5,292	発電容量 5 K w、蓄電池付き
解 体 工 事 費	23,594	502 m ² ×@47,000 円/m ² （処分費含む）
消 費 税	16,617	1 0 %
合 計	182,783	

※調査費、設計費(基本設計、実施設計)は含まない。

※建替え工事に伴う引越し費用などの諸経費は含まない。

D. スケジュール

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
地 元 説 明		●			
調 査 ・ 設 計			●	●	
建 築 工 事					●
供 用 開 始					

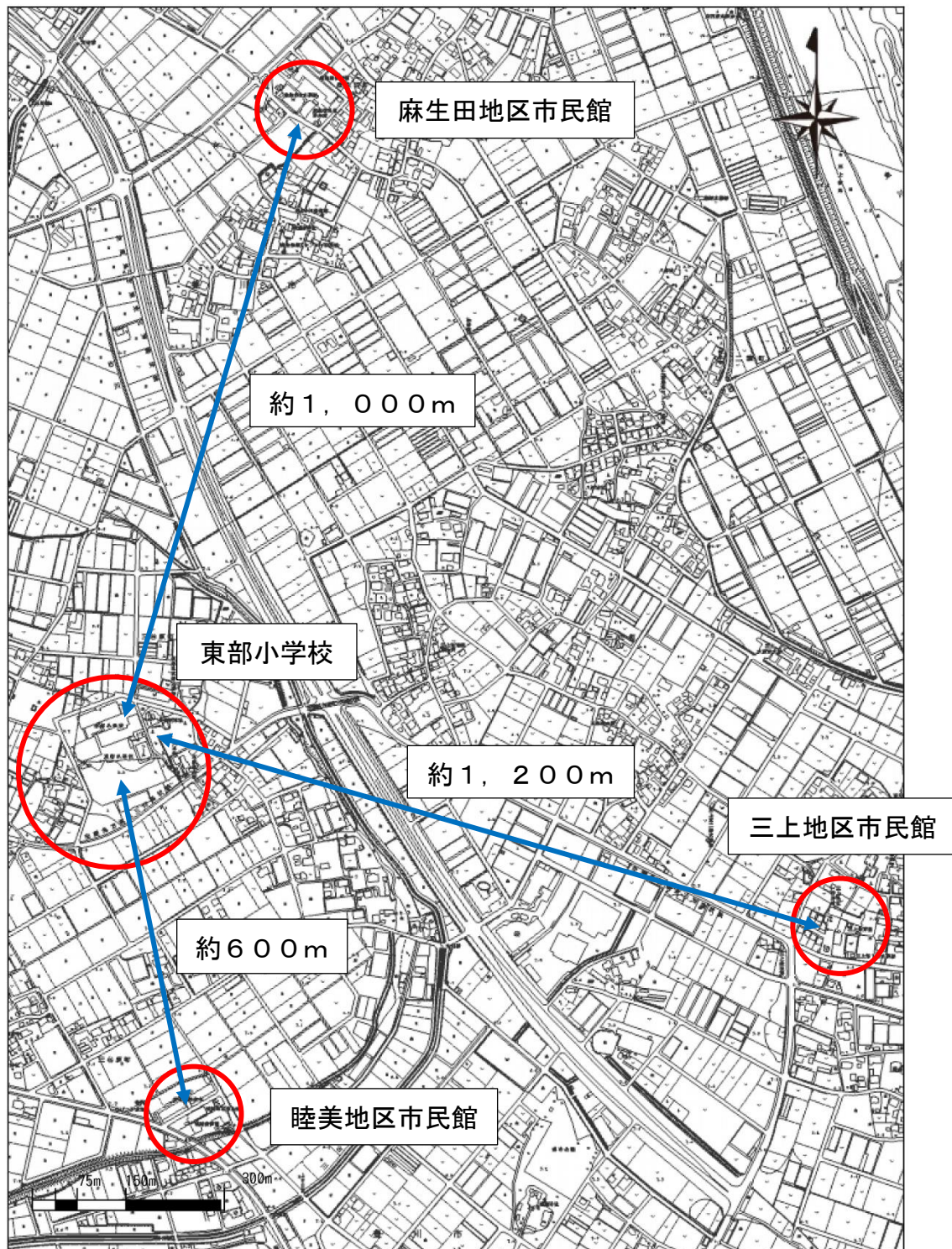
※現在地での建替えとなるため、建築工事期間中は他施設（八南生涯学習センターや町内会の地区集会施設など）を利用する必要があります。

※供用開始は令和 9 年度を目指します。



千両地区市民館

豊川東部地区市民館



三蔵子地区市民館



千両地区市民館

